

会社扱い一般募集分(41億円)の消化は、当月から一部証券会社が実施した累積投資(不特定多数の投資家による共同買付け)による消化が比較的順調であったこともあってまずまずの推移を示し、売れ残りも例月に比べ僅少にとどまった模様である。

また、8月の起債(純増ベース、国債、金融債を除く)は、410億円と前月(396億円)を多少上回る見込みである。内訳をみると、事業債について前月の178億円から208億円へとかなりの増加が見込まれているが、これは、消化環境の好転と上期枠(発行ベースで2,280億円)の達成を考慮したためである。地方債の増加および政保債の減少は主として償還額の多寡による。なお、新規長期国債の市中引受け額は前月並みの100億円(前年同月100億円)にとどめられ、うち証券会社扱い額も前月と同水準の41億円(前年同月54億円)と決定された。

実体経済の動向

◇生産、出荷はかなりの増加基調

(生産——相当な増勢を持続)

鉱工業生産(季節調整済み、以下同じ)は、4、5両月著増のあと6月は前月比+0.1%と伸び悩んだが、7月の速報では前月比+2.5%と再びかなりの増加を示した。7月(速報)は、耐久消費財を除き各財とも増加したが、なかでもこれまで比較的落ち着いた動きを示してきた生産財が、鉄鋼、石油製品、化学製品等を中心に大幅な増加を示した点が目だっており、これら生産財の生産は原材料の輸入依存度が高いだけに、国際収支の先行きともからみ今後の動向が注目されよう。ちなみに、生産の増勢が目だちはじめた4月以降における鉱工業生産の伸び率をみると、ほぼ一貫して急速な拡大を示した昨年9月の引締め前の伸びをむしろ上回る高いテンポの増勢を持続している。

最近の動きをやや詳しくみると、一般資本財は、4、5月高いテンポの増勢を続けただけに、6月は前月比+1.2%と、伸び率はさすがに鈍化した。もっとも、内容的には4、5月著伸をみた金属加工機械、建設機械、計測機械等の反動減が目だっている一方、化学機械、特殊産業機械、運搬機械、産業用電気機械、電子応用装置は著増するなど、品目により区々な動きを示している。7月(速報)も工作機械、通信機械、耕運機等を中心に小幅ながら続伸した。資本財輸送機械は、6月に船舶の増加を主因に前月比+3.0%とかなりの増加を示したあと、7月(速報)も船舶の続伸などを中心に大幅に増加した。1～3月に増加の目だった建設資材は、6月は木材の減少が響いて-0.6%と5月に続き減少となったが、7月(速報)は、金属製建具の続伸に加え、鉄骨、セメント等の増加もあってかなりの増加(+2.2%)を示した。耐久消費財は、6月も家庭電器、乗用車を中心に+3.6%と、3ヵ月連続して増加を示したが、7月(速

報)は夏物家庭電器の落込みを主因に若干減少した。4、5月大幅な増加を続けた非耐久消費財は、6月に食料品、たばこ、医薬品の減少から-3.2%と著減したが、7月(速報)は、たばこの反動増を中心に再びかなりの増加を示した。生産財は、6月化学製品等の減少を主因に-0.3%と減少を示したあと、7月(速報)は普通鋼鋼材、非鉄(銅、アルミ)、石油製品、化学製品、電子部品、ゴム、繊維等を中心に相当な伸び(+3.6%)を示した。

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	42年		43年		43年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	5月	6月	7月
鉱工業	138.2	145.4	148.1	156.1	157.4	157.6	—
指 数							
前期(月)比	5.2	5.2	1.9	5.4	2.8	0.1	2.5
前年同期(月)比	19.5	19.1	17.2	18.4	19.1	17.5	19.1
投資財	6.1	6.9	3.0	5.6	3.3	1.5	3.0
資本財	8.0	9.1	0.8	6.5	5.1	2.1	3.4
同 (輸送機械を除く)	7.8	8.3	4.7	9.6	3.6	1.2	0.7
輸送機械	8.6	8.9	5.0	1.0	7.5	3.0	—
建設資材	2.1	2.0	8.3	3.1	-0.1	-0.6	2.2
消費財	5.3	6.1	1.4	9.0	3.3	0.4	0.1
耐久消費財	8.2	8.9	4.4	10.8	4.2	3.6	-0.7
非耐久消費財	3.8	4.5	3.1	5.4	2.3	3.2	1.7
生産財	4.1	3.3	3.8	2.4	2.1	-0.3	3.6

(注) 通産省調べ、43年7月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

(出荷——根強い足どり)

鉱工業出荷も、4、5両月著増のあと6月は-1.7%の減少となったが、7月(速報)は速報ベースで前月比+1.5%と再び増加した。4、5両月の出荷増加には、輸出の急増が大きく寄与してきたが、6、7月は輸出数量が頭打ちを示しており、7月の出荷増加はもっぱら国内向け出荷の増加によってきさえられたものと思われる。財別にみると生産と同様、鉄鋼、石油製品、化学製品を中心とする生産財の出荷増がとくに目だっており、一部流通段階やユーザー段階での在庫手当て態度に多少の動意がうかがわれる点は注目される。

内容をみると、一般資本財では、4、5月相当な増加を示した農業用機械、金属加工機械、電動

機等が6月にはさすがに減少を示したものの、化学機械、運搬機械、電子応用装置の反動増もあって、+0.5%と小幅の増加を示し、7月(速報)も工作機械、耕運機、通信機等を中心に前月とほぼ同程度の続伸を示した。資本財輸送機械は、5月著増のあと、6月は船舶の大幅反動減が響いて-6.7%と減少したが、7月(速報)は船舶、鉄道車両等を中心に再び増加した。建設資材は、5月の減少に続き、6月も木材を中心に-1.6%の減少を示したが、7月(速報)は金属製建具、セメント等の増加から、3か月ぶりかなりの増加となった。4月以降増加の目だつ耐久消費財は、6月も、取得税実施(7月1日)を控えた自動車の出荷増や家電製品を中心に+7.0%と著増し、また、7月(速報)も、自動車の著減にもかかわらず、家電製品の出荷増にきさえられて相当な増加基調を継続した。非耐久消費財は、6月は、フレの大きい食料品、医薬品の減少から-7.7%と大幅な減少を示したが、7月(速報)は、たばこの著増を主因に若干増加した。生産財も、6月伸び悩み(-0.1%)のあと、7月(速報)は、普通鋼鋼材、石油製品、石油化学製品(ポリエチレンは減少)、ゴムを中心にかなりの増加(+2.2%)を示した。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	42年		43年		43年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	5月	6月	7月
鉱工業	137.3	140.8	146.6	154.1	156.5	153.8	—
指 数							
前期(月)比	5.5	2.5	4.1	5.1	3.1	-1.7	1.5
前年同期(月)比	18.6	15.4	16.6	17.9	19.4	15.1	16.8
投資財	8.2	0.4	9.4	5.5	6.3	-1.8	0.7
資本財	10.7	-0.2	9.3	6.5	10.0	-2.4	0.6
同 (輸送機械を除く)	7.6	8.0	4.6	9.6	-0.3	0.5	0.7
輸送機械	16.0	-13.1	19.2	0.6	29.7	-6.7	—
建設資材	0.4	2.4	8.6	3.8	-1.0	-1.6	1.7
消費財	5.7	3.3	0.9	7.8	0.3	-3.6	0.9
耐久消費財	10.5	6.5	1.8	12.2	1.1	7.0	2.0
非耐久消費財	4.6	2.1	-0.7	5.3	-0.5	-7.7	0.5
生産財	3.1	3.4	3.0	2.9	3.0	-0.1	2.2

(注) 通産省調べ、43年7月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

(在庫——7月の製品在庫はやや増加)

鉱工業製品在庫は、4～6月+2.6%(前期末比)と、1～3月(+6.6%)、42年10～12月(+7.2%)に比べ増勢は鈍化したが、7月(速報)は前月比+2.2%とかなりの増加となった。もっとも、これには取得税実施に伴うトラック、大型乗用車の出荷減から、資本財輸送機械の在庫が著増していること、8月の夏期休暇を控えて、たばこの在庫が著増を示したことなどの一時的要因が大きく響いている。

内容をみると、一般資本財は、6月+2.5%と増加したあと、7月(速報)も相当な増加を示した。トラクターが引き続き増加を続けたほか、ここ一両月やや減少の目だった工作機械、標準モーター等も反動増を示した。資本財輸送機械は、取得税実施を控えたトラックの一時的な出荷増から、6月まで3ヵ月連続して著減を続けたが、取得税実施後の7月(速報)は大幅増加を示した。耐久消費財は、6月は需要期を控えた家電製品を中心に+1.6%の増加となり、7月(速報)も取得税実施に伴い、出荷減少の目だつ乗用車を中心に引き続き増加した。非耐久消費財は、たばこの著増

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

	42年		43年		43年		
	9月	12月	3月	6月	5月	6月	7月
鉱工業製品在庫率	83.0	87.6	90.3	88.3	86.2	88.3	89.0
指数	115.9	124.2	132.4	135.9	134.9	135.9	—
前期(月)末比	4.2	7.2	6.6	2.6	1.6	0.7	2.2
前年同期(月)末比	9.7	18.0	21.9	22.1	20.9	22.1	24.3
投資財	7.2	2.7	7.8	-2.2	-0.7	-0.1	4.2
資本財	6.5	7.2	12.2	-6.0	-2.9	-0.9	5.1
同(輸送機械を除く)	7.1	6.9	4.4	2.4	-0.6	2.5	1.9
輸送機械	-1.4	14.8	47.9	-33.7	-14.4	-15.6	—
建設資材	6.8	-2.8	4.5	2.1	2.5	1.0	2.6
消費財	2.2	10.1	5.8	6.4	3.4	2.4	2.5
耐久消費財	0.2	9.2	14.5	10.5	5.4	1.6	1.3
非耐久消費財	4.9	9.9	0.4	5.1	3.0	2.8	4.4
生産財	4.5	6.1	5.7	1.4	0.7	-0.1	1.3

(注) 通産省調べ、43年7月は速報。前年同期(月)末比は原指数による。

が大きく響いて、6月+2.8%のあと7月(速報)も前月の伸びを上回る大幅な増加を続けた。生産財は、鋼材、化学製品、紙・パルプ等の減少のため6月は-0.1%と微減を示したが、7月(速報)は、生産の増加に伴い鉄鋼、石油製品等を中心にかなりの増加となった。

このような出荷、在庫の動きを映じて、製品在庫率指数は6月88.3、7月(速報)89.0と、若干上昇した。

メーカー原材料在庫は、4月-0.9%、5月-0.3%と伸び悩んだあと、6月も-0.7%の微減を示し、この結果、4～6月では前期末比-1.9%の減少となった。業種別にみると、鉄鋼業の在庫圧縮が続いたほか、非鉄、ゴム、皮革業の原材料もそれぞれ減少を示したが、反面石油、機械、船舶などでは、原材料を再び積み増す動きも生じている模様である。

一方、6月の原材料消費は、+0.7%と前2ヵ月とほぼ同程度(4月+0.5%、5月+0.5%)の小幅の増加となり、本年2月以降の落着き基調を継続している。特殊分類別にみると、輸入素原材料が4、5月引き続いて減少のあと、6月+1.2%とやや増加したのが目だつ程度で、その他はおおむ

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節変動調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	42年		43年		43年		
	12月	3月	6月	4月	5月	6月	
在庫指数	130.0	133.4	130.9	132.2	131.8	130.9	
前期(月)末比	1.6	2.6	-1.9	-0.9	-0.3	-0.7	
国産分	0.3	3.4	-3.5	-1.4	-1.5	-0.7	
素原材料	1.0	10.1	-7.1	-0.9	0.4	-6.7	
製品原材料	0.4	0.6	-2.0	-1.6	-1.5	1.1	
輸入分	6.0	0.1	2.2	0	2.5	-0.4	
素原材料	6.1	-0.9	2.4	0.5	2.2	-0.3	
在庫率指数	90.0	90.1	86.8	88.8	88.0	86.8	
国産分	88.4	89.4	84.4	87.3	85.5	84.4	
素原材料	100.8	107.9	97.9	106.0	105.5	97.9	
製品原材料	87.6	86.3	82.7	84.1	82.3	82.7	
輸入分	94.8	90.6	95.5	94.0	96.7	95.5	
素原材料	97.2	91.4	96.4	95.0	97.8	96.4	

(注) 通産省調べ、43年6月は暫定。

製造工業原材料消費の推移

(季節調整済み、前期(月)比増減率・%)

	42年			43年		
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	4月	5月	6月
製造工業	1.3	3.0	1.3	0.5	0.5	0.7
国産分	1.1	2.9	1.7	1.0	0.7	0.6
素原材料	-1.9	0.7	2.3	0.9	0.9	0.6
製品原材料	1.6	3.2	1.6	0.9	0.7	0.5
輸入分	2.8	4.0	-2.4	-3.6	-0.3	0.9
素原材料	1.9	4.1	-1.8	-3.3	-0.8	1.2
製品原材料	14.4	1.5	-8.3	-5.6	4.5	-0.8

(注) 通産省調べ、43年6月は暫定。

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	42年		43年	43年		
	9月	12月	3月	3月	4月	5月
総合指数	265.8	271.8	277.5	277.5	281.8	279.6
前期(月)末比	11.4	2.3	2.1	2.2	1.5	-0.8
素原材料	-3.2	3.0	-2.5	1.4	-7.7	3.8
製品	13.8	1.6	3.1	2.0	2.7	-1.3

(注) 通産省調べ、43年5月は暫定。

ね落ち着いた動きを続けている。以上のような在庫、消費の動きを映じて、6月の原材料在庫率指数は前月比-1.4%(指数86.8)の続落となった。

5月の販売業者在庫は、-0.8%と4か月ぶりに減少を示した。これは、製品が鋼材、織物、糸、洋紙を中心に-1.3%の減少となったことによるもので、素原材料は前月の反動もあって、国産分、輸入分ともに増加し、全体で+3.8%の増加となった。

(設備投資——増勢持続)

設備投資にはほぼ一致して動く一般資本財出荷の動きをみると、4~6月に+9.6%と、四半期中の伸びとしては実に7年半ぶりの著増を示したあと、7月(速報)も小幅ながら続伸した。内容的にも、ボイラー原動機、化学機械、特殊産業機械、発送配電機器、電子応用装置等大型受注機種が、月によってフレを示しつつも、ならしてみればかなりの増勢を持続していることなどから推して、設備投資は依然として根強い増加基調をたどって

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	42年			43年		
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	5月	6月	7月
民需	1,506	1,261	1,528	1,452	1,472	1,673
(8.3)	(-16.2)	(21.1)	(-12.5)	(1.4)	(13.6)	
同/海運を除く	1,405	1,167	1,360	1,340	1,266	1,455
(11.9)	(-17.0)	(16.5)	(-9.0)	(-5.6)	(14.9)	
製造業	876	679	756	703	694	773
(9.7)	(-22.5)	(11.4)	(-19.4)	(-1.3)	(11.5)	
非製造業	622	585	765	754	761	903
(4.0)	(-6.0)	(30.7)	(-3.3)	(1.0)	(18.7)	
同/海運を除く	528	489	604	676	546	683
(14.4)	(-7.3)	(23.5)	(14.9)	(-19.2)	(25.0)	

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

いるものと思われる。

一方設備投資の先行指標である機械受注(海運を除く民需)は、4~6月に前期比+16.5%と大幅に増加し、1~3月の落込み(前期比-17.0%)をほぼ回復したあと7月も前月比+14.9%と著増を示した。内訳をみると、製造業からの受注が鉄鋼、化学等を中心に+11.5%と4月以来3か月ぶりの増加を示したほか、非製造業(海運を除く)からの受注も+25.0%と、電力を中心に急増した。

◇全体としてやや底堅さが加わる

最近の商品市況をみると、7月後半に木材の一部、砂糖、化学製品(合成樹脂)等で底値感が台頭し、主力商品の鉄鋼、繊維でも大勢底固めから若干強含む動きをみせてきたが、8月にはいって、綿糸が定期市場における一部投機筋の売りから軟調を示したものの、鉄鋼が条鋼類、鋼板類とも軒並み上伸し、また非鉄(銅、鉛)、高圧ポリエチレン等も値上がりないし強含みに転ずるなど、基調としてはやや底堅さを増してきているようかかわれる。

最近の主要商品の需給動向をみると、輸出の好調持続(鉄鋼、生糸、亜鉛)に加え、内需についても秋口以降の需要の盛り上がり期待から、一部問屋筋の在庫手当(鉄鋼、銅)、先物手当(セメント)などの動きがしだいに強まりをみせてきている。一方、供給面ではメーカー、大手問屋が各種の市

況対策を引き続き慎重に進めつつあり(鉄鋼、高圧ポリエチレン、砂糖)、こうした需給双方の事情が最近の商況の地合いを徐々に底堅くしているものとみられる。この間、軟調を示した綿糸についても、メーカーは需給基調に格別の変化が生じたわけではないとして、当面安値の糸市販は見合わせ、秋口以降の市況の回復に期待を寄せているようにうかがわれる。

品目別の動きをやや詳しくみると次のとおり。

鉄鋼では、条鋼類、鋼板類とも軒並み値上がりを示した。これは輸出が好調なうえ、内需についても官公需などの秋口以降の盛り上がりを期待して、問屋・特約店が在庫手当てを進めつつある一方、供給面でも、メーカーの店売り分の出荷削減強化などの市況対策が慎重に進められているためである。繊維では、生糸が反発し、スフ糸が小じつかりに推移したほか、そ毛糸、人絹糸は保合いとなったが主力の綿糸は軟化した。もっとも、綿糸の軟調は定期市場における一部投機筋の売りを反

映したもので、需給の基調にさしたる変化は認められない。このため、メーカーは秋口以降の需要の盛り上がり期待して当面売り急ぎの態度を示していない。生糸、スフ糸は底堅さを増してきており、またここ一両月低迷相場を続けてきたそ毛糸についても、一部問屋筋に在庫補充の動きがみられるなど、全体としてみると先行きに明るさを感じられる。非鉄は大勢として小締まりぎみになりつつある。まず銅が実需筋の在庫手当を映じて強含みとなったほか、鉛も値上がりに転じたことが目だっている。亜鉛は保合いに推移しているが、亜鉛鉄板の出荷好調で先安感がおおむね払拭されつつあるようにうかがわれる。石油ではC重油が電力向け出荷の好調から強含みを示しているが、灯油は季節的事情もあってやや荷もたれぎみとなった。建材ではセメントが出荷好調から強保合いで推移し、秋口以降の官公需をめざして問屋の先物手当てが活発化している。また木材は、内地良材が強含みを続けたが、外材は引き続き軟調

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	上 昇 期 (ボトム 40/7) 40/7 →43/2	下 降 期 (ピーク 43/2) 43/2 →43/7	最 近 の 推 移							
				43 年			43 年 7 月			43年8月	
				5 月	6 月	7 月	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	
総 平 均	100.0	+ 6.1	- 0.9	保 合	+ 0.1	- 0.2	- 0.1	保 合	- 0.1	保 合	
食 料 品	15.7	+ 9.7	+ 1.8	+ 2.8	保 合	+ 0.2	+ 0.4	- 0.2	- 0.5	+ 0.1	
織 維 品	10.7	+ 11.4	- 1.7	- 0.2	+ 0.7	- 0.4	- 0.4	- 0.2	- 0.2	- 0.1	
鉄 鋼	9.7	- 0.9	- 1.7	+ 0.2	+ 0.9	- 0.2	- 0.1	保 合	- 0.1	- 0.1	
非 鉄 金 属	4.4	+ 19.3	- 9.5	- 6.8	+ 2.0	- 1.2	- 1.1	保 合	- 0.9	- 0.8	
金 属 製 品	3.8	+ 4.6	- 0.6	- 0.2	- 0.2	保 合	保 合	保 合	保 合	+ 0.1	
機 械 器 具	22.1	+ 1.1	+ 0.3	+ 0.2	+ 0.1	- 0.1	- 0.1	保 合	- 0.1	保 合	
石 油・石 炭	5.6	0.0	- 4.1	- 0.6	- 1.7	- 0.7	- 0.7	+ 0.4	- 0.3	- 0.1	
木 材・同 製 品	6.2	+ 29.7	- 1.2	- 1.3	- 0.9	+ 0.9	保 合	+ 0.9	保 合	+ 0.6	
窯 業 製 品	3.0	+ 7.1	+ 0.8	+ 0.2	+ 0.1	+ 0.2	保 合	保 合	+ 0.3	保 合	
化 学 品	7.6	- 5.1	- 1.6	- 0.2	- 0.3	- 0.6	- 0.4	保 合	- 0.1	+ 0.2	
紙・パ ル プ	3.4	+ 2.5	- 0.6	保 合	- 0.2	- 0.1	保 合	保 合	- 0.2	保 合	
雑 品 目	7.9	+ 6.3	0.0	+ 0.1	+ 0.2	- 0.2	保 合	- 0.1	保 合	+ 0.1	
工 業 製 品	82.0	+ 3.8	- 0.5	+ 0.1	+ 0.2	- 0.2	- 0.1	- 0.1	保 合	保 合	
うち 大 企 業 性	59.6	+ 1.3	- 0.5	+ 0.2	+ 0.2	- 0.3					
中 小 企 業 性	21.0	+ 11.0	- 0.1	保 合	+ 0.3	+ 0.1					
非 工 業 製 品	18.0	+ 16.4	- 2.4	- 0.5	- 0.4	+ 0.2	+ 0.1	+ 0.3	- 0.6	+ 0.1	

(注) 本行調べ。

消費者・輸出入物価の推移

(単位・%)

	ウエ イト	前年度比 上昇率		最近の推移			近 の 年 月 比	
		41年 度平 均	42年 度平 均	43年				
				6月	7月	8月		
消 費 者 物 価	総 合 (季 節 商 品 を 除 く)	100.0	+4.7	+4.1	-1.4	+0.6	-0.2	+ 5.9
		91.4	+4.9	+3.9	保合	+0.3	+0.2	+ 6.2
	食 料	40.9	+3.0	+5.7	-3.3	+1.3	-0.6	+ 7.4
	住 居	10.7	+5.7	+3.7	+0.1	+0.4	+0.3	+ 2.7
	光 熱	4.5	0.0	+0.1	-0.2	保合	保合	+ 0.8
	被 服 雑 費	13.0	+3.6	+3.0	-0.6	+0.1	-0.1	+ 5.8
		31.0	+7.9	+3.4	-0.1	+0.2	+0.3	+ 5.6
全 国	総 合 (季 節 商 品 を 除 く)	100.0	+4.7	+4.2	-0.9	保合		+ 5.7
	91.4	+4.7	+3.9	+0.1	+0.2			+ 5.8
入 口 上 五 都 市	総 合 (季 節 商 品 を 除 く)	100.0	+4.6	+4.1	-1.0	+0.2		+ 5.6
	91.3	+4.6	+3.9	保合	+0.3			+ 5.8
輸 入 物 価	輸 出		+0.6	+0.2	+0.1	-0.1		+ 0.4
	輸 入		+1.4	-0.4	+0.1	-0.8		+ 0.1
	交 易 条 件		-0.8	+0.7	保合	+0.7		+ 0.3

(注) 消費者物価は総理府統計局、輸出入物価は本行調べ。

ぎみに推移している。化学製品では、基礎薬品(かせいソーダ、硝酸、硫酸)が引き続き弱保合いに推移したが、高圧ポリエチレンはメーカーの市況対策(減産、出荷削減)が奏効し、販価は約1割程度引き上げられた。紙は、段ボール用原紙が出荷好調から強保合いとなっているほかは総じて弱含みで推移している。砂糖は、市況対策の進展かたがた旧盆関係の地方需要の増加もあって続伸を示した。

(卸売物価——小幅軟化)

7月の卸売物価(総平均)は、前月比-0.2%と3か月ぶりの反落となった。これは、木材・同製品が梅雨明けから反騰に転じたものの、非鉄金属が海外の銅市況低迷を映じて下落、鉄鋼も7月中旬までの鋼材市況の小反落から微落となったほか、繊維品、化学品(工業薬材、化肥)等も総じて軟弱に推移したことによる。なお、産業別分類では、工業製品が前月比-0.2%と反落した一方、非工業製品は+0.2%の反騰を示した。

8月上旬は、鉄鋼が鋼材市況の反発にもかかわらず、くず鉄等の値下がりが大きく響いて引き続き弱含みとなったほか、繊維品、石油・石炭等も軟弱な動きを続けた反面、木材、化学品が値上がりに転じたため、前旬比保合いとなった。また、中旬は鉄鋼の反発、木材の続騰などから+0.1%と微騰した。

(消費者物価——再び上昇)

7月の消費者物価(東京)は、前月比+0.6%と反騰を示したが、8月は再び-0.2%と反落した。7月の反騰は、食料がくだもの、生鮮魚介等を中心に+1.3%の大幅上昇となったほか、前月下落した被服(身の回り品)、雑費(理容衛生)等がほぼ軒並み小幅の値上がりとなったことによる。

8月の反落は主として食料の大幅値下がりによるもので、ここ一両月食料の動きが消費者物価の足どりに大きな影響を与えている。ちなみに、季節商品を除いてみると、7月は前月比+0.3%、8月は+0.2%の小幅上昇となっている。

(輸出・輸入物価——ともに反落)

7月の輸出物価(本行調べ)は、前月比-0.1%

と小幅の反落となった。これは、冷凍まぐろ、かん詰めを中心に食料品がかなり値上がりしたものの、機械器具(船舶)、繊維品(綿糸、生糸)等が下落したためである。なお、船舶を除く総平均では前月比保合いとなっている。一方、輸入物価は、前月反騰のあと7月は前月比-0.8%と大幅下落となった。これは、食料品(とうもろこし、コーヒー)、金属(銅系非鉄)、鉱物性燃料(原油)をはじめ、ほぼ軒並み値下がりしたことによる。

この結果、交易条件指数は100.3と前月比0.7ポイントの上昇となった。

◇総合収支は大幅黒字を持続

7月の国際収支は、貿易収支が季節的要因もあってかなりの黒字幅を持続したうえ、長期資本収支が受超幅を拡大したため、総合で157百万ドルの受超と前月に引き続き大幅黒字を記録した。もっとも、貿易収支を季節調整してみると、輸出が船舶の停滞などから前月を下回った反面、輸入が後記のような特殊事情もあって高い伸びを示したため、差引き黒字幅は117百万ドルと前月のほぼ

半ばにとどまった。また、貿易外収支は貨物運賃支払の増加などから赤字幅を拡大した。

資本収支の動きをみると、長期資本は延払い信用供与など本邦資本の流出が小幅にとどまった一方、外国資本の流入が多額のインパクト・ローンの

国際収支

(単位・百万ドル)

	42年		43年		43年			前年 7月
	10~12 月	1~3 月	4~6 月	5月	6月	7月		
経常収支	19 [△]	296	198	44	127	80	71	
貿易収支	386	118	549	169	236	199	173	
輸出	2,836	2,569	3,112	1,093	1,033	1,056	881	
輸入	2,450	2,451	2,563	924	797	857	708	
貿易外収支 [△]	328 [△]	354 [△]	305 [△]	110 [△]	92 [△]	111 [△]	91 [△]	
移転収支 [△]	39 [△]	60 [△]	46 [△]	15 [△]	17 [△]	8 [△]	11 [△]	
長期資本収支 [△]	224 [△]	110 [△]	15 [△]	32 [△]	45 [△]	59 [△]	73 [△]	
基礎的収支 [△]	205 [△]	406 [△]	183 [△]	12 [△]	172 [△]	139 [△]	2 [△]	
	([△] 451)	([△] 112)	(338)	(137)	(161)	(57)	([△] 91)	
短期資本収支	113	115 [△]	33 [△]	8 [△]	9	6 [△]	10 [△]	
誤差脱ろ [△]	5	44	71	48	18	12	52 [△]	
総合収支 [△]	97 [△]	247	221	52	181	157 [△]	64 [△]	
金融勘定 [△]	97 [△]	247	221	52	181	157 [△]	64 [△]	
外貨準備増減 [△]	17 [△]	42	13	25	57	96 [△]	38 [△]	
その他 [△]	80 [△]	205	208	27	124	61 [△]	26 [△]	
外貨準備高	2,005	1,963	1,976	1,919	1,976	2,072	2,036	
為銀対外 ポジション	[△] 1,028	[△] 1,234	1,022	…	[△] 1,022	[△] 960	…	

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。
2. 短期資本収支には金融勘定に属するものを含まない。
3. 金融勘定の[△]印は純資産の減少。

輸出入指標の推移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支			通関		輸出 信用 状	輸出 認証	輸入 承認
	輸出	輸入	貿易 じり	輸出	輸入			
42年 7~9月	863	777	86	887	989	695	908	972
10~12 ^々	872	826	46	887	1,065	732	931	1,078
43年 1~3 ^々	945	808	137	960	1,025	780	1,014	903
4~6 ^々	1,048	813	235	1,068	1,027	849	1,119	927
43年 3月	970	814	156	973	1,027	795	1,016	944
4 ^々	985	800	185	1,007	1,014	818	1,045	880
5 ^々	1,125	831	294	1,149	1,053	884	1,202	987
6 ^々	1,034	809	225	1,048	1,013	844	1,110	913
7 ^々	1,005	888	117	1,103	1,046	895	1,157	1,013

- (注) 季節調整はセンサス局法による。
四半期計数は月平均類。

の取入れ、外債の発行、証券投資の増大などから前月に引き続き高水準に推移したため、59百万ドルの受超と受超幅を拡大した(前月は45百万ドルの受超)。短期資本は短期インパクト・ローンの取入れなどから5ヵ月ぶりに流入超に転じた。

金融勘定では、為替銀行の対外ポジションが買持輸出形形の増加を主因に引き続き好転(62百万ドル)を示し、外貨準備も96百万ドルの大幅増加をみた。この結果、為替銀行の対外短期負債超過額は6月末の1,022百万ドルから960百万ドルにまで改善し、また7月末の外貨準備高は2,072百万ドルと20億ドル台をこえ、ほぼ42年6月末の水準(2,074百万ドル)にまで回復した。

7月の輸出は前年同月比+19.9%と依然高水準ながら、増加率は前月(+22.2%)を下回り、季節調整後も6月に引き続き前月比減少となった。このように、ここ一両月輸出の伸びがやや鈍化しているのは、船舶輸出の不規則なフレ(5月急増のあと、6月、7月と低水準に推移)がかなり響いているものと思われる。商品別(通関ベース)には、上記船舶のほか綿織物等が低迷を続けているが、金属、機械、合繊等は依然順調に増加しており、とくに自動車(前年同月比+105%)、鉄鋼(同+48%)の著増が目だっている。また仕向け先別には、西歐向けが不振であったほかは、米国向け、東南アジア向けを中心に各地域向けとも概して好調を持続しているが、この間、東南アジア向け、西歐向けの伸び率が低下傾向を示していることもあって、輸出増加に占める対米輸出の比率が漸次高まってきている点は注目される。

先行指標である輸出信用状は、6月にやや伸び悩んだ(前年同月比+17.4%)ものの、7月には再び増加し、前年同月比+35.1%、季節調整後の前月比+6.0%の高水準となった。

一方、7月の輸入は前年同月比+21.0%、季節調整後の前月比でも+9.8%と高い伸びを示した。もっとも、これは6月に関税一括引下げ(ケネディ・ラウンド関係分、7月1日実施)をあて込んで一部品目で通関を繰り延べたことの影響による面が

少なくないものとみられ、6、7月をならしてみるところのところ若干増加ぎみとなっているものの、これまでの着落き傾向がとくに大きく変わったとはみられない。商品別(通関ベース)にみると、機械、一部原燃料(鉄鉱石、石炭、原油等)が根強い増勢を続けているほか、化学品、大豆、雑製品も通関繰延べの反動からかなりの増加となった。

先行指標の輸入承認は前年同月比+8.9%、季

節調整後の前月比+10.9%と水準を高めた。これには、前月の申請が関税引下げ待ちの関係から低水準であったことの反動による面もあるとみられる。なお、年初来着落きを示していた鉄鉄の輸入承認が前月比ほぼ倍増したが、前年同月比ではこれを3割方下回る水準にとどまっている。

通関輸出の内訳

(単位・百万ドル)

	42年		43年		43年		
	10~12月	1~3月	4~6月	5月	6月	7月	
食料品	108	104	89	34	27	30	
	(- 8)	(+ 24)	(+ 16)	(+ 39)	(- 6)	(- 1)	
魚介類	69	71	52	20	15	18	
	(- 18)	(+ 27)	(+ 9)	(+ 31)	(- 14)	(- 8)	
繊維製品	484	367	485	168	165	168	
	(- 7)	(+ 1)	(+ 12)	(+ 17)	(+ 11)	(+ 18)	
綿織物	69	45	59	21	20	20	
	(- 22)	(- 20)	(- 8)	(0)	(- 4)	(- 4)	
合繊織物	100	69	91	32	31	34	
	(+ 9)	(+ 5)	(+ 21)	(+ 31)	(+ 24)	(+ 49)	
化学製品	173	149	207	69	72	72	
	(- 6)	(- 3)	(+ 15)	(+ 11)	(+ 24)	(+ 14)	
非金属	78	71	82	28	27	28	
鉱物製品	(+ 6)	(0)	(+ 9)	(+ 7)	(+ 10)	(+ 13)	
金属製品	498	484	586	199	205	203	
	(+ 4)	(+ 22)	(+ 37)	(+ 39)	(+ 40)	(+ 45)	
鉄鋼	351	353	427	142	150	146	
	(+ 3)	(+ 22)	(+ 40)	(+ 38)	(+ 45)	(+ 48)	
機械機器	1,228	1,164	1,361	489	435	440	
	(+ 9)	(+ 20)	(+ 30)	(+ 53)	(+ 25)	(+ 16)	
(船舶を除く)	962	884	1,107	393	371	379	
	(+ 8)	(+ 20)	(+ 32)	(+ 38)	(+ 34)	(+ 32)	
テレビ	46	39	57	20	21	23	
	(- 10)	(+ 2)	(+ 77)	(+ 96)	(+ 78)	(+ 59)	
ラジオ	97	73	98	36	33	39	
	(+ 9)	(+ 11)	(+ 24)	(+ 44)	(+ 22)	(+ 34)	
自動車	129	137	179	62	58	61	
	(+ 40)	(+ 47)	(+ 52)	(+ 47)	(+ 58)	(+ 105)	
船舶	265	280	254	97	64	61	
	(+ 9)	(+ 19)	(+ 22)	(+ 179)	(- 19)	(- 35)	
光学機器	85	73	91	33	29	31	
	(+ 5)	(+ 6)	(+ 16)	(+ 25)	(+ 5)	(+ 13)	
その他	322	274	360	125	121	129	
	(+ 1)	(+ 15)	(+ 16)	(+ 21)	(+ 13)	(+ 15)	
合計	2,890	2,612	3,171	1,113	1,052	1,070	
	(+ 3)	(+ 15)	(+ 25)	(+ 35)	(+ 22)	(+ 20)	

(注) カッコ内は対前年同期(月)比増減率(%)。

通関輸入の内訳

(単位・百万ドル)

	42年		43年		43年		
	10~12月	1~3月	4~6月	5月	6月	7月	
食料品	454	462	485	176	156	144	
	(+ 7)	(+ 2)	(0)	(- 2)	(- 2)	(+ 12)	
小麦	72	74	68	23	22	21	
	(+ 4)	(+ 16)	(- 26)	(- 38)	(- 23)	(- 29)	
とうもろこし	58	58	67	26	21	19	
	(0)	(+ 2)	(+ 23)	(+ 19)	(+ 24)	(+ 24)	
砂糖	28	45	44	16	10	9	
	(+ 15)	(+ 25)	(+ 40)	(+ 49)	(+ 9)	(- 3)	
原燃料	1,805	1,791	1,921	683	604	653	
	(+ 19)	(+ 13)	(+ 13)	(+ 14)	(+ 9)	(+ 22)	
羊毛	78	82	96	33	35	35	
	(- 18)	(- 15)	(- 4)	(- 9)	(+ 6)	(+ 10)	
綿花	88	127	154	57	45	41	
	(- 17)	(0)	(+ 12)	(+ 15)	(+ 4)	(+ 29)	
鉄鉱石	180	187	218	77	67	76	
	(+ 11)	(+ 11)	(+ 15)	(+ 7)	(+ 25)	(+ 30)	
鉄鋼くず	72	39	34	12	10	11	
	(+ 33)	(- 33)	(- 61)	(- 59)	(- 68)	(- 70)	
大豆	72	69	68	24	19	27	
	(+ 4)	(- 11)	(+ 11)	(+ 15)	(- 12)	(+ 46)	
木材	256	249	315	109	102	109	
	(+ 39)	(+ 26)	(+ 37)	(+ 37)	(+ 19)	(+ 31)	
石炭	108	122	126	42	41	49	
	(+ 30)	(+ 32)	(+ 23)	(+ 17)	(+ 20)	(+ 46)	
原油	438	417	410	140	133	124	
	(+ 29)	(+ 22)	(+ 19)	(+ 17)	(+ 22)	(+ 24)	
化学製品	166	166	157	58	45	65	
	(+ 22)	(+ 18)	(+ 4)	(+ 12)	(- 16)	(+ 35)	
機械機器	286	333	339	120	113	112	
	(+ 31)	(+ 36)	(+ 22)	(+ 18)	(+ 26)	(+ 58)	
鉄鋼	107	64	51	19	13	17	
	(+ 110)	(- 12)	(- 48)	(- 36)	(- 65)	(- 36)	
非鉄金属	169	161	152	66	42	44	
	(+ 62)	(+ 26)	(+ 3)	(+ 14)	(- 13)	(+ 2)	
その他	144	144	149	54	49	61	
	(+ 40)	(+ 40)	(+ 25)	(+ 32)	(+ 12)	(+ 43)	
合計	3,130	3,120	3,255	1,176	1,022	1,096	
	(+ 23)	(+ 15)	(+ 9)	(+ 11)	(+ 4)	(+ 22)	

(注) カッコ内は対前年同期(月)比増減率(%)。